

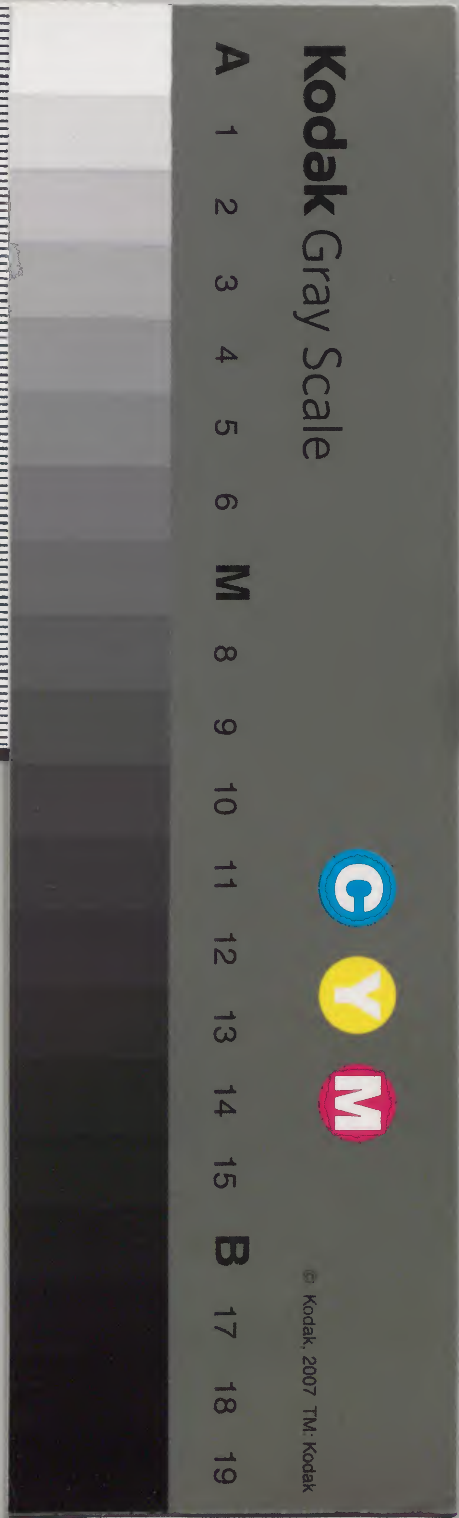
政要秘談

丑之九

太政官文庫			
	七	和	
	九	書	
三	七	門	
冊	八	類	
架	號		
函			

內閣文庫			
	七	和	
	九	書	
一	七	類	
冊	八		
架	號		
函			

內閣文庫	
番號	和 7978
冊數	3 ( 2 )
函號	182 329





明治十年獻本

政要秘談卷之五

世祿

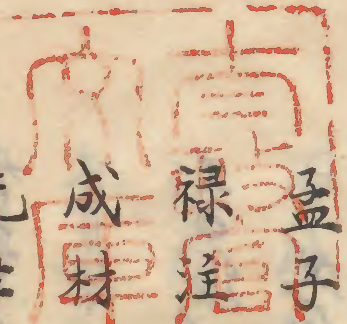
孟子周礼多述之

孟子曰昔者文王之治岐也耕者九一仕者世

世祿

成材則官之如不足用亦使之不失其祿蓋先

先世嘗有功德於民故報之如此忠厚之至也









天子の臣も士も年々自強を世に伝へて  
治るる所を治るる所を周の世に傳へて  
教を以てて百官も士も十に八九を父祖の官を以て  
治るる所を治るる所を周の世に傳へて

一 爵祿 先爵位と定めては爵位を以てし

孟子曰天子一位公一位侯一位伯一位子男  
各一位凡五等

右公侯伯子男ハ何モ法度として治るる天子と  
治るる子男も其の爵位も各一位にして

君一位卿一位大夫一位上士一位中士一位

下士一位凡六等

天子之制方千里公侯皆百里伯七十里子男  
五十里凡四等

天子之卿受地視侯大夫受地視伯元士受地  
視子男

大國地方百里君十卿祿卿四大夫大夫倍上  
士上士倍中士中士倍下士

天子之制方千里公侯皆百里伯七十里子男  
五十里凡四等







見たりは天子歳入の田地ハ公侯十倍の積りなり  
左の如く天子の賜る田地ハ公侯十倍の積りなり

王制曰天子之縣内方百里之國九七十里之  
國二十有一五十里之國六十有三凡九十三國  
名山大澤不以盼其餘以祿士以為閒田注曰  
大國九者三公之田三者為有致仕者副之為  
六也其餘三待王之子弟次國二十一者卿之  
田六亦為有致仕者副之為十一又三為三孤  
之田其餘待封王之子弟小國六十三者大夫  
之田二十七亦為有致仕者副之為五十四其

餘九以待封王之子弟三孤之田不副者以其  
無職佐公論道耳

天子は畿内ハ百里方ハ公卿大夫ハ以下ハ  
田之制ハ略々此ノ如シ也 公侯大夫ハ以下ハ  
一ノ又進古主ノ子弟ハ以下ハ封シ地ト祿ト祿  
ハ上士以下ハ祿ニシテ又閒田トシテ 常小明知多  
國多ハ所由ニ 邦内ノ所由ニ 邦内ノ所由ニ  
邦内ノ所由ニ

諸侯之有功者取於閒田以祿之其有削地者  
歸之閒田



諸侯此幼者湯如增は如何に封之閑田は如何に  
は如何に差又法爲は如何に最科は如何に又何年子  
細きは領地を封之れは如何に之地を如何に  
之閑田は如何に

天子之畿内諸侯祿也注曰選賢置之於位其  
國之祿如諸侯不得世有功乃封之使之世也  
古受地の人とあり之ら如何に領之れは如何に  
法爲は如何に年は如何に之れは如何に田種は如何に  
て山林川澤あり之れは如何に祿あり之れは如何に  
之れは如何に一休は如何に世祿は如何に入あり

法爲は如何に年は如何に一休は如何に  
以下新部は如何に一休は如何に  
新部は如何に功あり之れは如何に其人は如何に  
之れは如何に子孫は如何に之れは如何に  
之れは如何に何年は如何に功あり之れは如何に  
之れは如何に世祿は如何に

一 仕田 賞田 宅田 官田

周禮地官司徒識師以宅田士田賈田任近郊  
之地以官田牛田賞田牧田任遠郊之地以公  
邑之田任田地以家邑之田任稍地以小都之



田任縣地以大都之田任置地註曰宅田致仕者之家所受田也士讀為仕者亦受田所謂圭田也

孟子曰自卿以下必有圭田 五十畝賈田在市賈人其家所受田也官田庶人有官者其家所受田也牛田牧田畜牧者之家所受田也賞田賞賜之田也公邑謂六遂餘地天子使大夫治之家邑大夫之采地小都卿之采地大都公之采地王子弟所食邑也

天子之采地 王子弟所食邑也

天子軍之采地 也 邦之采地 宅田は田賈田を世に  
一里一里百里の采地と遠郊を以て官田牛田  
賞田牧田を以て公邑の田を以て古郷古遂を  
て主郡の采地を百里之内と古邑に分ち千軍の内  
と古遂を以て百里之内と古邑に分ち千軍の内  
遂を以て百里之内と古邑に分ち千軍の内  
と古邑を以て百里之内と古邑に分ち千軍の内  
ハ之公に私領を以て百里之内と古邑に分ち千軍の内  
二百軍と甸を以て百里之内と古邑に分ち千軍の内  
と古邑を以て百里之内と古邑に分ち千軍の内















いふをいふい父を更しと云ふはくもいふもまたいふ  
きんをいふ又て父をいふといふもいふもいふも  
を更しと云ふといふもいふもいふもいふも  
永相傳はくもいふもいふもいふも

十月

室新助

荆山日尾氏曰流布本をいふ父大史と云  
フマテアリテいふもいふも以下ノクタリヲ闕タリ今余  
カ家ノ本ヲモツテ補之マタ下ノ第九卷歩里寸尺ノ  
ヲ云フタル條ノウチ處在ハ六町と一里に依りて以下ヲ  
爰ニマシエ入タリ今マタ下ノ九卷へウツシ且脱漏ヲ補ヒ

兩篇トモニ完璧トナルヲ得タリ第九卷照シ見テ知  
ルヘシ余ハ華門圭竇ノ貧儒其位ニアラサレハ其政  
ヲ議セサルハ古人ノ戒シメ玉フ所ナレハ更ニモ言ハス  
テ清平ノ御治世イフヘキ言ノアルヘキナラ子ハ經學ヲ餘  
ヲ、鳩巢白石ノ諸君祖徠春臺ノ諸子政ニアツカル  
ヲ書ツノ置レタルヲ見テ其可否ハシラ子ト或ハ笑ヒ  
ルイハ泣キ或ハ喜ヒアルヒハ怒リマタ錯簡誤脱アル  
モノハ自ラ讐言ヲ以タノシミトス亦是斃腹ノ疾ヲ療ス  
ルノ一方ノミ



政要秘談卷之六

子孫する者先徳之事人の中定信を覺

祠堂

天子法居之廟と申すは下位祠堂と申すは社人  
所居の白刃の作る廟と申すは天子を古代と申すは法  
後下位と申すは下位代と申すは

社

位階の海と申すは社人祠堂と申すは社人の仕置の  
社と申すは社人の横中に入る社と申すは横中を社と  
申すは用中の厨と申すは社人のその社人



一時祭

春分秋分四時此祭... 申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月

忌祭

忌日... 申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月

母戒

母戒... 申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月

上香

上香... 申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月

酌酒

酌酒... 申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月  
申中春を二月夏を六月秋を八月冬を十一月







西忌日を空母々々以て不為歩不他公不任  
日信ふま

一 薦新

その凡初知ととら中御は其の先程を免るる  
自かすらる

一 有年則告

若高しに帝に告ぐるときは必ず先程告ぐ  
勿論と香附内礼持告

一 生子見廟

誕生し夜一日過るに抱持し廟より先程

湯見せしを母れき通ふ

三月

室新助

水ハ下より流るる候 中御存ト云

大馬は九列此水と流るる中御存ト云

去に上りて地取のる下と考ふるは流るる水

もその九列の内葉列を帝都に流るるに

あなすの馬首に葉列既載重と考ふるは

と切用する水と流るる中御存ト云

地早に少流る中御存ト云



































以之爲君此人柄執之者以是仕る天子ト云  
群臣と進退は役らばたんに神を天下に周郡  
農氏とて地方に所するを考ふる中其神に於て  
重なる所を以てたれども其神を終廷祀格の事は  
考ふる多神を軍國に馬のり考ふる刑神を刑罰の  
事と考ふる多神を造管の事と考ふるは此の神官を  
之類とて以て所屬はたれども天子と臣とあり  
神中におきては後を代へてたれども

朱熹曰周礼周公建大平之基本如基盤相似  
枅布定後碁子方有施處

蔡沈云六卿分職各率其屬官以倡九州之牧  
自内達之於外政治明教化洽兆民之衆莫不  
阜厚而化成也

右朱熹蔡沈の傳何れも周礼に六卿以下百官と定

此所  
虫食 太平 此所  
虫食 七篇教化は首陽は信也此中朱熹蔡盤

のちのちの的の中は事にもあるに意に百官は定むる  
能く考盤は表す月とりのりの中は此 此同  
虫食

とて及て考盤は下り不考るに以て月とりのりの中  
考盤しる石と下り無しんて下り考盤し其  
通ししんて先百官と定むるに改と







時代にむらり治せらる馬と御中人是を御由り  
あつたるを賭的とあつたるを若くは若く  
賭的と遠くく之を此博奕とくく之を此  
之類一色う水う交十年迄秘まてい 射を御由  
はるし中らわい各自ら互あつたるをくく風  
俗を此<sup>此間</sup> 風俗美習う此<sup>此間</sup> 風俗美習う此<sup>此間</sup>  
邪美うくくまはる般を軍使くく子紀由全被  
相調ふとま門定るくくくく知はれずくく御由  
古卒惜痛くく御由り 是を 聖くく子紀由定  
くくく速く自他 是を 聖くく子紀由定  
くくく速く自他 是を 聖くく子紀由定

中より治天下以正風俗得人材為本と  
是又簡易と成きぬ  
上六所英名にうりて 世所も得し 此の身は終はる  
言路所感くくく此俗のあに核りて 作身是又命  
此を 市金感はるる 此と老年初決書  
此法取人より 是とくく 命はるる 作身是又  
者より 命はるる 命はるる 命はるる 命はるる  
改下くくく

室新助



改要秘談卷之八

田原山池常平議

常平と云ふは河を以て方々を以て又入

中より取り常平に於ては持合を以て

漢に常平金と云ふ事あり

一 周の成王は田原の制と相考りて周の成王は封土の

法を以てその事不官の事は古世の法

の事ありて其の事不官の事は古世の法

の事ありて其の事不官の事は古世の法

の事ありて其の事不官の事は古世の法

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



























しる原人たるを執成し、成るは其外苗佐六の原  
しる世の格よしとして、同く是進仕し、師を  
之よりん、後原、付志成、帝に、平公、何、也、し、列  
後、之、封、り、く、曰、括北間ニ、字出食、之、也、主減、一人、ある、一代、元、功、  
り、原、大、傅、に、之、め、ん、て、之、の、人、甲、く、是、進、仕、る、の、  
之、し、原、の、付、大、師、諸、普、大、傅、王、且、何、也、し、後、成、り、  
少、長、人、こ、後、文、長、博、景、ゆ、れ、之、志、を、以、て、師、に、  
し、之、ゆ、り、之、を、諸、普、王、且、り、原、之、祖、の、爵、位、を、  
同、く、是、進、仕、る、の、北間、出食、主減、之、を、自、分、に、北間、出食、主減、  
勿、論、也、と、言、ふ、

一

漢、史、唐、よ、り、く、任、め、る、の、門、下、と、し、事、を、  
任、め、る、の、父、兄、し、後、功、に、く、り、て、之、の、弟、と、  
七、二、人、北間、出食、主減、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
門、下、と、し、任、め、る、但、し、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
有、し、り、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
唐、傳、し、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
皆、名、家、と、し、任、め、る、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
門、地、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
し、北間、出食、主減、北間、出食、主減、  
是、古、の、弊、也、と、し、北間、出食、主減、北間、出食、主減、

北魏の孝文  
帝のウツ



選調

人を選んずるに  
官と校するに

專取門品遺才能季仲曰

傳説

殷高宗  
賢臣

呂望

周文王  
賢臣

豈可以門地得之乎凡

文帝初在に官と命せしむるに才品此を以て

官のふる下と定むる能くは佳に及んぬ

季仲とては下りて昔殷の傅説の傳説に才品の

日備しとて大なる濁水の底より是れ何

し門地とては門地とて人とははるるは賢

臣はとて海よりなる中河に在る司馬屈公は

とては選擧之法先門地

而後賢材此魏晉之深弊雖孝文之賢而不能

免此弊也故夫明辨是非而不惑於世俗者鮮

矣古者官爵を以て是れ年若くは

海に在るに先んじて官位を以て是れ

海に在るに先んじて官位を以て是れ

門地を以て是れ官位を以て是れ

海に在るに先んじて官位を以て是れ

君よりして是れ官位を以て是れ

魏王於光極堂政事とて  
堂に在る宣下品令品令は是れ  
後のははるるに

光祿勳于烈子登列例求遷官烈曰

聖明之朝理應謙讓而登引例求進是臣素無







行之 凡士を雇年と云しりてハ是レ御用ナシニ不  
中々雇年と云御用として帝に和を新くしと  
先ハ御用ナシ御用ナシに依り年考と陳らる  
官位と乞ひし御用ナシと傷<sup>聞</sup>文ニ依り  
定め付け詔方し向<sup>向</sup>自<sup>自</sup>りし事公の量と陳  
りし御用ナシと御用ナシと事<sup>事</sup>中人<sup>中人</sup>と方<sup>方</sup>りし御用  
はし御用ナシ

張拭胡詮久不理<sup>年</sup>勞<sup>上</sup>嘉<sup>其</sup>廉靜<sup>詔</sup>拭<sup>特</sup>遷<sup>二</sup>  
兩官<sup>詮</sup>磨<sup>勅</sup>四官<sup>一</sup> 張拭ハ張南軒胡詮ハ胡澹庵  
何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup> 何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup> 何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup> 何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup>

之事<sup>一</sup> 會者<sup>不</sup>仕<sup>ら</sup>る<sup>者</sup> 檢<sup>知</sup>ん<sup>ど</sup>れ<sup>と</sup>年<sup>考</sup>と<sup>是</sup>レ  
世<sup>に</sup>ハ<sup>し</sup>り<sup>し</sup> 世<sup>に</sup>ハ<sup>し</sup>り<sup>し</sup> 世<sup>に</sup>ハ<sup>し</sup>り<sup>し</sup> 世<sup>に</sup>ハ<sup>し</sup>り<sup>し</sup>  
事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>  
何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup>

考<sup>考</sup>と<sup>是</sup>レ<sup>也</sup> 日本<sup>公</sup>家<sup>或</sup>家<sup>と</sup>して<sup>は</sup>先<sup>征</sup>  
の<sup>官</sup>位<sup>に</sup>よ<sup>り</sup>て<sup>は</sup>子<sup>孫</sup>の<sup>先</sup>途<sup>は</sup>何<sup>事</sup> 矣<sup>固</sup>門  
落<sup>し</sup>て<sup>は</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>事<sup>と</sup>御<sup>用</sup>ナシ<sup>と</sup>  
何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup> 何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup> 何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup> 何<sup>道</sup>也<sup>定</sup>此<sup>賢</sup>者<sup>一</sup>

七月六日 室 新 助



步里寸尺之法王制公羊傳多に出るは是又  
善及水の道に記し一里を云

一 王制曰方里者為田九百畝註云一里方三百  
步 是方八日本此方人作方より歩百と云畝より  
方一畝を百坪百畝を一万坪之畝を二万坪九百  
畝を九万坪と云是則井田の地に云くは  
一里ハ三百畝を中爲り之畝井田より云くは  
方四万九千坪の地と云身より是を知るは  
中付を云くは方ハ長と九長之畝と云是と相定  
りは別ハ八百人に云くは是

一 公羊傳註云古六尺為步三百步為里計一里  
有千八百尺十里即有萬八千尺

此後王制に同じくは

- 一 韻會云路程三百六十步為一里
  - 一 明程五位算法統宗云歩五尺里三百六十畝
  - 一 元朱世傑算學啓蒙云里法三百歩為一里者  
當以方六尺為歩若三百歩為一里者當以方  
五尺為歩 荆山魚澄氏業若三  
百歩下滿有六十字
- 右一歩六尺之法一里と三百歩は相定ると云  
はるる法は法より三百六十歩に云くは是



歩と云ふには往々古人には往々一里の  
法一里は歩の倍の事なり

一 周礼付に古者一歩に定むるは八寸五分にして  
今歩に定むるは八寸五分にして古者一歩は  
今歩の二倍なりと云ふ事あり然るに周礼に  
一歩に定むるは八寸五分にして古者一歩は  
今歩の二倍なりと云ふ事あり然るに周礼に

一 司馬法云一舉足曰跬三尺兩舉足曰步二  
六尺と云ふ事あり然るに古者一歩は  
今歩の二倍なりと云ふ事あり然るに周礼に

踏道不中は往々法程の遠近と云ふ事あり然るに  
と云ふ事あり然るに古者一歩は  
今歩の二倍なりと云ふ事あり然るに周礼に

一 王制曰古者以周尺八寸為步今以周尺六寸  
四寸為步陳皓注云古者八寸為尺以周尺八  
寸為步則一步有五尺一寸二分是今步比古  
步每步刺出一尺二寸八分







之と周にハ六人ト云ふに法事ノ号あり川  
中ハ公羊侍司馬法云々ト申す御書此  
王制ノ説十二律ノ法ハ寸ト云ふ人トはハ何れ  
周生ハ然レの付古法ト變シテ八寸ト云ハ八寸ハ  
ト申す也云々ト云ふハ此ノ部云々ト云ふ  
多ク是レ法事ト云ハハ何れ也ト云ハハ  
荆山日尾氏曰流布ノ本ニ以上ノ文ヲニテ脱  
シタリシカノミナラス以下ノ文ヲ五ノ巻尾ニ錯  
簡セリ今舊ニ復ス

一 國產に云ふ丁ト云ふ是ハハ御書ノ算者ト云ハハ

是ハ國產ト云ハハ二百六十五ト云ハハ是ハ一  
六十歩ノ法ト云ハハ三百六十歩ト云ハハ是ハ  
是ハ國產ト云ハハ八百人也日本ハハ路程ト算  
ハハ何レハ曲人ト云ハハ云々ト云ハハ是ハ  
是ハ一歩六十歩ト云ハハ三百九十人ト云ハハ  
是ハ八百人ト云ハハ三百九十人ト云ハハ是ハ  
中ハハ何レハ御書ト云ハハ一歩六十歩ノ法ト云ハハ  
是ハ三百九十歩ト云ハハ何レハ是ハ國產ト云ハハ  
日本ハハ何レハ三百九十間ト云ハハ是ハ何レハ  
是ハ國產ト云ハハ日本ハハ一里十歩ト云ハハ一



















